

【O-0256】

当院における退院支援～病棟リハビリを含めた関わり～

幸町記念病院看護部

○玉井るみ子(たまい るみこ)、車 圭子、戸川満喜、佐藤真由美、大野呂和栄、小井正美、秦 佳子、松田浩明、岡 良成、高津成子、宮崎雅史

【はじめに】当院では、透析専門病院として入院を要する骨折などの整形外科的疾患の患者に対して、看護師が主体となりリハビリを行っている。今回、過去2年間の退院支援について総括するとともに、看護師の取り組みを代表的な症例を通して報告する。

【結果】平成22年から23年の間に治療を行った患者220名のうち、整形外科的合併症で入院した患者は30名であったが、リハビリを含めた退院支援の結果、28名が外来に移行することができた。

症例1：70歳男性。他院にて左変形性膝関節症術後、せん妄状態のまま転入院となる。睡眠管理等により回復し、自宅から通院が可能となった。

症例2：83歳女性。腰椎圧迫骨折により入院となる。床上安静から歩行器歩行ができるようになり、介護付マンションからの通院が可能となった。

【まとめ】看護師が毎日継続してリハビリを行うことや、介護認定やケアカンファなどの環境調整は患者および家族の退院支援に効果的であったと考える。